

代表取締役社長 戸沼 淳

昨年度を振り返ってみますと、例年になく難工事が多い年だったと感じています。東北での湯ノ倉治山工事をはじめ、林務課の勝軍山の林道工事、開発局の笹流橋、見晴橋の下部工事、建築現場でもネットトヨタ江差店、五稜郭改良団地の耐震工事と厳しい工期と現場条件が課せられ、会社としての総合力が試された年でもあったと思います。施工検討会での課題の先取りや、現場と発注者の良好なコミュニケーションと信頼関係のおかげで、しっかり工期を守り、引き渡しことができました。



新年度朝礼にて

当社の信用力、技術力も一段と上がったと思いますし、皆さんも自信がついたことと思います。

また昨年度は、国有林、道有林、民有林の現場で表彰をいただき、改めて治山工事に強い会社だと認められました。国有林では林野庁長官賞を、民有林と道有林で渡島振興局より優秀代理人表彰をいただきました。

ノンフレームを下請けした工事においても、元請会社が林野庁長官賞を頂いたり、高い工事点数を獲得するなど、非常に感謝されております。今後とも、研究と研鑽を重ね、得意分野に磨きをかけていきたいと思っております。

完工高と経常利益の目標に関しましては、当初は厳しい予想をしていましたが、設計変更にも恵まれ、見事にクリアすることが出来ました。本当にありがとうございます。

今年度以降の公共工事の予算は、景気浮揚のカンフル剤としての役割は薄まってきます。優先度の高い事業や維持補修、復旧が中心となり、ノンフレームを中心とした予防治山などは、予算と緊急性を配慮しての発注になると思っております。

受注量確保に向けては、事業量の多い東北での受注や総合評価の研究と高い精度の積算が重要になりますので、よろしくお願ひします。

昨年7月に国土交通省から「国土のグランドデザイン2050」が発表されました。これは2050年の未来を予測するものではなく、現時点で想定される日本を取り巻く厳しい環境条件を前提に戦略を立て、目指すべき国土の姿を示したものです。

戸沼岩崎建設は昨年創立60周年を迎えましたが、これから日本が人口減少の時代を迎える中で、今一度、会社をはじめ、地域や建設業の将来ビジョンを確認する時期だと思っております。

ISOのマネージメントレビューや一泊研修会を通して議論を深め、みんなで目指す将来ビジョンに向けて、知恵と汗を絞っていきたく思います。

今年度もよろしくお願ひいたします。



安全と衛生

戸沼岩崎建設株式会社 発行
平成27年4月15日
<http://www.tonuma.com/>
第209号

各種の賞をいただきました

平成27年に入り、当社の職員が各方面から表彰を受けました。
◇富吉正人さん：平成26年度の治山林道コンクールで、林野庁長官賞を受賞しました。対象工事は檜山森林管理署発注の「奥尻島本町地区治山工事」です。



施行地は山腹表面の崩壊剥離が進行し、島の基幹となる町道への落石が懸念されていました。併せて斜面の安定化を図るためノンフレーム工法が採用され、施工経験豊富な富吉さんが作業所長に選ばれました。本人のほか、法人としての当社も同賞を受賞いたしました。.....

渡島総合振興局は3月3日、平成26年度優秀技術者感謝状贈呈式を行いました。26年に完成した工事の中から、森林土木工事4件と水産土木工事1件が選出されました。

◇工藤三寿さん：森林土木工事4件のうちの1件「伊予部地先復旧治山工事」(旧南茅部地区)に選定されました。



現地でのウィンチ運転者特別教育の実施や通路の照度確保などリスクの低減策に有効性が確認されました。

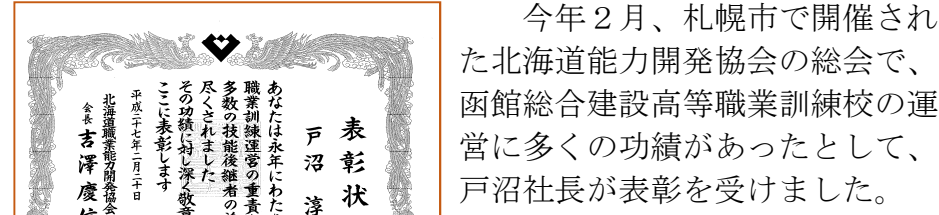
◇吉元克繕さん：同じく森林土木工事の部「原木地区その2復旧治山工事」(旧戸井地区)で受賞されました。



集落後背地の崩落防止工事で、概ね3千平方メートルの法面を868本のロックボルトで押さえるノンフレーム工でした。

削孔時の騒音低減措置を実施するとともに、家屋周辺における4点で騒音測定を行って効果の確認を行い、環境に配慮する施工に努めました。

宮内孝局長から賞状を受ける工藤さん(上)と吉元さん



今年2月、札幌市で開催された北海道能力開発協会の総会で、函館総合建設高等職業訓練校の運営に多くの功績があったとして、戸沼社長が表彰を受けました。26年度の当地区の事業内職業訓練校には朝山さんが入学しました。

ISO9001とISO14001の規格が変わります

当社が認証を取得しているISO規格(以下9001と14001と記述します。)が今年中に改正されます。実はDIS(Draft International Standard: 国際規格原案)は9001が2014年5月に、14001は同じく6月に改正発行されています。そして最終(Final)国際規格案(FDIS)9001:2015は今年9月に、14001:2015が7月に発行となります。



新たな規格による認証移行期間は、新版発行から3年間ということですから、2018年9月頃までには移行審査を受けなければなりません。そのためには第一にマニュアルの改訂が必要となります。幸いなことに、新ISの項番は9001のそれが14001に倣う形になりましたので、OHSASとともに、施工プロセスにおけるPCDAとの整合性が保たれることとなりました。

次に、改正規格(DIS)の主な変更点を見てみます。

1. 形式的・規範的な要求事項が減りました。これには、全業種、全業態に適用可能とする狙いがあります。
(例)「設計・開発の管理」では、レビューを実施することのみが規定され、レビューの方法に関する規定は削除されています。

2. 文書化要求が緩和されました。(ラッキー!(^_^)v)
書類作成から焦点を外して、「事業にとって適切なものは何?」ということに着目しています。

このことは、我々の業務プロセスとマネジメントシステムの一体化が促進されるということで、重要なことは効果的なプロセスの構築であって、書類の管理ではないということです。

3. リーダーシップが強化されました。(社長!要注意(;))
「組織の戦略的な方向性を確実にする」「人々を指導・支援すること」に言及することで、マネジメントシステムの責任が経営者にあることが改めて明示されました。(筆者が言ってるんじゃないやありません。)これには、管理責任者任せ(当社では、そのようなことはありません。)の風潮への対応と言われているそうです。

4. 「リスクベースの思考」が基本的な考えとして採用されました。
当社の業務プロセスにおけるリスクや機会を分析して、優先順位付けして処置を計画します。

- 受け入れられるものは何?
- 受け入れられないものは何?
- どうすれば回避できる? などです。



- ・改正による影響は大きいのか?

審査機関では「従来から右図を踏まえた活動を行ってきた組織への影響は小さい。」ということなので、共に学んで行きましょう。

渡島総合振興局から優秀技術者として表彰された5名のうち、2名を当社が占めました。林野庁長官賞を含めると、国有林・道有林・民有林の森林土木3分野すべてで表彰されたこととなります。このことに倣(おご)ることなく、顧客満足度の一層の向上を図って研鑽を積んでいただきたいです。(え)

